

臨床腫瘍学

担当指導医師

●本院

教授：板持 広明

特任教授：岩谷 岳

講師：遠藤 史隆

学修方針（実習概要等）：

高次臨床実習の目的は、4・5学年の臨床実習で修得した診察法および臨床腫瘍学を含めた一般医学知識に基づいて、腫瘍性疾患患者の病態および問題点を的確に把握し、病態に即した治療方針を示すことができることと、緩和ケアを含めた多職種チーム医療を理解することにある。よって担当指導教官のもとで以下の実習を行う。

教育成果（アウトカム）：

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎・臨床医学の基礎知識を再構築し、臨床腫瘍診療において基本的問題解決に必要な基礎知識と包括的対処法を習得する。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,6,7,8）

到達目標（SBOs）：

外来・病棟実習

- * 1. 患者の病歴を聴取し、その医療情報を説明できる。
- * 2. 理学所見と全身状態より患者の状態を説明できる。
- * 3. がんの診断に必要な検査法とその所見を説明できる。
- * 4. がんの治療法と集学的治療の理念、目的、意義について説明できる。
- * 5. がん薬物療法の副作用と支持療法を説明できる。
- * 6. がん薬物療法におけるチーム医療の意義と重要性を説明できる。
- * 7. 患者および家族とのコミュニケーションの重要性を説明できる。

具体的実習内容：

1. 実習内容

- (1) 患者の病歴聴取、胸部・腹部の診察（視診、聴診、打診、触診）を行う。
- (2) カルテ記載を行い、患者への病状説明に同席する。
- (3) 全身状態、バイタルサイン、ADL、フレイル評価を学ぶ。
- (4) 問題点を抽出し病態との関わりを説明する。
- (5) 問題点に対する方針をたてる。
- (6) EBMに基づいた治療方針を立案し説明する。
- (7) 副作用の評価と支持療法を学ぶ。
- (8) 緩和医療との連携を学ぶ。
- (9) 外来化学療法室で看護師と薬剤師とのチーム医療の理念と実際を学ぶ。
- (10) がん専門施設での実習を介してがん医療を経験する。

（注；受け入れ施設の状況によりがん専門施設で実習ができないことがある）

2. 教室内行事

- (1) 回診（毎朝：8：45～）
- (2) キャンサーボードミーティング（第 1,3 週水：7:30～8:00）
- (3) 骨転移カンファレンス（第 2,4 週水：18 時～）

3. 具体的な対象疾患名

- (1) 原発不明がん
- (2) 消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がん等）
- (3) 甲状腺がん・口腔がん
- (4) 縦隔悪性腫瘍
- (5) 悪性軟部腫瘍

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
視聴覚用機械	液晶ディスプレイ	1 台	講義・症例検討
視聴覚用機械	パソコン一式 (Windows)	1 台	講義・症例検討
その他	電子カルテ	2 台	講義・症例検討